

「新型コロナウイルス感染拡大に関連した実践活動及び研究」成果報告書

1. 実践活動・研究の名称

新型コロナウイルス感染拡大防止と社会活動再開のためのテクノロジー受容の国際比較研究

2. 実践活動・研究の成果

(1) グループ代表者

①氏名：楠見 孝

②所属・職名：京都大学教育学研究科・教授

③構成メンバー 1人

氏名：嘉志摩佳久

所属・職名：メルボルン大学心理学部・教授

(2) 実践活動・研究の成果

目 的

本研究の目的は、新型コロナウイルスとその感染拡大防止のためのテクノロジー、免疫パスポート等に対する市民の態度、感情等について検討することである。本研究は、メルボルン大学心理学部 Simon Dennis 教授を代表者とする縦断的な国際比較研究（オーストラリア、英、独、スペイン、台湾、日本など）である (<https://psychologicalsciences.unimelb.edu.au/chdh/preliminary-results-covid-19-tracking-social-licence>)。その日本における調査をメルボルン大学嘉志摩教授と進めた。

調査では、感染追跡テクノロジー（接触確認アプリ）について、政府による強制力の異なる2つのシナリオを参加者間要因として、リスク認知、政府への信頼感、及び免疫パスポートの効果の認知と受容、集合的感情（collective emotion）等を含む受容の規定因について、2回のパネル調査で検討する。参加者は全国の市民約1000人であり、第1回パネル調査はメルボルン大学の予算で、2020年5月に実施しており、本助成は第2回のパネル調査のためである。

なお、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）は、2020年6月19日に厚生労働省からリリースされ、匿名性が高いことを強調して利用を呼びかけた。しかし、アプリの重大な不具合が発覚するなどの問題があり、2021年8月13日までのダウンロード数は2947万件（スマホ所有者の約37%）、陽性登録者は26,734件（累積陽性者の2.3%）と当初の目標を大きく下回っている。こうした接触確認アプリが普及しなかった状況は、国際共同研究を行っている他国でも同様であった。そのことから、研究の焦点を、接触確認アプリからワクチンや免疫パスポートにシフトさせている(e.g., Garrett, et al., 2021)。そこで、本研究においても接触確認アプリ受容の規定因を明らかにすることに加えて、新型コロナをめぐる集合的感情に重点をおいて分析をおこなった。

方 法

[調査参加者]

本助成金を受けた調査は、2020年12月から2021年1月にオンライン調査により実施した。参加者は、全国の男女1007（男501，女506）人、年齢は18-89（平均44.7，SD16.8）歳。既婚者48%，有職者62%，大卒者49%，第三波の感染が拡大していた東京・埼玉・千葉・神奈川在住者は62%（2021年1月8日から緊急事態宣言）であった。

なお、2020年5月実施の1回目調査は、1081人（6カ国，12944人）からのパネルからは290人から回答を得た。

[質問項目]

- ① 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）ダウンロードの有無，ダウンロードの時期，削除したかの有無，ダウンロードの理由（6項目の順位法），有効性評価（5件法），プライバシー保護への信頼（6件法），アプリの知識，説得した人，他者への説得など
- ② 新型コロナの感染リスク認知（4項目，5件法）自分が感染したときの重症度，日本全体での深刻さ，自分の感染の心配，知人の感染の心配
- ③ 新型コロナに関する情報（4項目，5件法）身体への影響（症状，重症化率など），感染の仕方（飛沫，接触など），感染の予防の仕方（手洗い，マスクなど），感染したときの検査や治療の受け方について，どのくらい知っている評定を求めた。
- ④ 個人的/集合的感情 自分/社会一般が，12のコロナ関連対象（例：患者）に対して9つの感情（例：不安，恐怖，あきらめ，希望，軽蔑，安心，感謝）をもつか否か2件法で回答を求めた。
- ⑤ 情報源の信頼度 新型コロナウイルスに関する情報源として，どのくらい信頼できると思うか15の情報源に対して5件法で評定させた15の評定値に対する因子分析に基づいて，5つ情報源信頼度の下位尺度（周囲やSNS，マスメディア，週刊誌記事，国・地方自治体，医師・専門家）を構成した。
- ⑥ 政府のコロナへの対応評価（1項目，6件法）（政府のコロナウイルスへの対応全体をどのように評価しますか）
- ⑦ 科学技術の恩恵（3項目，スライダーバー）（例：科学技術は私たちの生活をより健康的，より簡便，より快適なものにしている）の標準化得点を用いた。
- ⑧ 新自由主義的イデオロギー（3項目，7件法）（例：政府は国民の生活にできるだけ干渉しないようにするべきだ）
- ⑨ 批判的思考態度尺度 批判的思考態度尺度（平山・楠見，2004）を改訂した計12項目5件法（楠見・平山，2013）。
- ⑩ マスク着用 マスク着用の頻度（4件法）と理由（6項目の順位法）

上記の③，④，⑤，⑨，⑩は，2回目に実施した日本独自の項目であった。なお，1回目実施時には，免疫パスポートに関する7項目（導入への賛否，運用の公平性など）について回答を求めた。

結果と考察

- ① 新型コロナの感染リスク認知 1回目の2020年5月調査における6カ国の比較（Garrett, et al. 2021）では，自分が感染したときの重症度や自分の感染の心配につい

ては、日本は、スペインや英国と並んで高かった。一方、オーストラリアとドイツは低かった。

② 新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) ダウンロード

アプリをダウンロードした人は、回答者の 25% (250 人) であった。そのうち 52% がアプリの公表された 2020 年 6 月 19 日の翌月の 7 月末までにインストールをしていた。また、1.7% (17 人) がインストール後にアプリを削除していた。インストールの理由の 1 位は「自分の健康を守るため」(62%) であり、誰からもインストールを説得されていない人が多かった (74%)。一方で、ダウンロードをしない理由の 1 位は、「役に立つと思わない」(32%)、「役に立つか検討している」(22%) であった。回答者の 48% が接触確認アプリでは感染拡大を抑制できない、47% が政府のプライバシー保護を信頼できないと考えていた。また、アプリがブルートゥース (機器同士の無線接続) を利用していることを知っていた人は 52% であった。

つぎに、追跡アプリをインストールしたかどうかの規定要因を明らかにするために、判別分析をおこなった。その結果、インストールの促進要因は、科学技術の恩恵評価 (標準化正準判別関数係数.59) と、コロナの感染リスク認知が高く (.36)、医師・専門家の情報信頼性が高いこと (.32)、高学歴 (.32)、逆に抑制要因は、新自由主義イデオロギー (-.48) であった。正判別率は 74% であった。

③ 個人/集合的感情

表 1 に示すとおり、コロナウイルスに対する不安 (個人 47%/集団 49%) の回答比率は、個人 (自分) と集合の双方とも高い。医療従事者への感謝 (84%/79%) は個人がやや高い。一方、個人よりも集合的感情の方が高いのは、患者への不安 (34%/42%)、マスクをしない人 (36%/54%) や首相 (29%/40%) への怒りである。このことは、自分は社会一般の人に比べて、社会的に望ましい感情 (感謝) をもち、社会一般の人は自分と比べて、望ましくない感情 (怒り) をより強くもっていると捉えていた。

さらに、9 つの個人/集合的感情と 12 の対象の対応関係を、コレスポンデント分析に基づいて、図 1 に示した。つぎに、9 つの個人/集合的感情ごとに 12 の対象への該当数を感情スコアとして、他の変数との相関を求めた。その結果、感染リスク認知と恐怖の相関は、個人に比べ集合的感情は低い (.24/.06)。また、政府のコロナ対策の評価、政府情報への信頼度は、個人/集合的感情の双方の怒りと逆相関 (-.32/-.20 ; -.28/-.17) であった。

9 つの個人/集合的感情ごとに 12 の対象への該当数を感情スコアとして、他の変数との相関を求めた。その結果、感染リスク認知と恐怖の相関は、個人に比べ集合的感情は低い (.24/.06)。また、政府のコロナ対策の評価、政府情報への信頼度は、個人/集合的感情の双方の怒りと逆相関 (-.32/-.20 ; -.28/-.17) であった。

④ 新型コロナに関する情報源の信頼度

新型コロナの情報源の信頼性評価 (5 件法) は、危険を説明する専門家、テレビ、新聞 ($M_s=4.2$)、国・地方自治体 (4.1) が高い。一方、安心させる週刊誌記事 (2.7) や市民のサイト (2.9) の信頼度は低い。楠見他 (2019) による東日本大震災の放射能健康影響に関する情報信頼性評価と比較すると、危険を説明する専門家、テレビ、新聞 ($M_s=3.1, 2.9, 3.0$) は、全体に低いが他の情報源に比べると高い。また、政府の記者会見は 2.2 と低く強い不信があったのが特徴である。

⑤ マスクとワクチン接種

回答した 2021 年 1 月時点で、マスクをいつもしている人は 89%、ワクチン接種を受けたい人は 55%であった。

⑥ 免疫パスポート

国際比較をおこなった第 1 回調査では、免疫パスポート導入の支持率は、イギリスとドイツでは 51%に比べて、日本では 22%と低かった。ベイズ一般化線形混合効果モデルの結果では、免疫パスポート支持の促進要因は、新自由主義的な世界観、新型コロナへの脅威（自分の感染の不安と完成したときの重症度）、免疫パスポートの公平性で、一方、抑制要因は、性別（女性）、免疫パスポートへの関心、社会全体の深刻さであった。

復興への貢献

本研究は、世界 6 か国で実施した 1 回目の調査項目 (Garrett, et al. 2021)に加えて、集合的感情などのオリジナル項目を加えて、2 回目の調査として実施した。

第 1 に、新型コロナウイルス接触確認アプリの普及が進まなかった原因として、技術的な問題よりも以前に、アプリの感染防止効果への疑念やプライバシーへの懸念が解消できなかったことが明らかになった。この結果は、今後、変異種による感染拡大のリスクや不安を低減しつつ、コロナ禍・コロナ後の社会・経済活動など再開するために、他のテクノロジー活用、免疫パスポート、ワクチン接種などの施策を進める際には、これらの問題を解消するような政策立案とコミュニケーションに活用できると考える。

第 2 に、今回新たに収集した集合的感情に関する結果は、コロナウイルスに対する不安は個人/集団とも高く、患者への不安や首相への怒りは集団的感情が高いと判断され、医療従事者、自治体、首長への感謝は個人的感情が高いと判断されていた。また、怒りについての個人/集合的感情を抑制するには、政府のコロナ対策の評価、政府情報への信頼度を高めることが重要であることが明らかになった。このことは、感染拡大の長期化による不安や怒りを、政府情報の信頼度を高めることによって抑制しつつ、コロナ対策に尽力する人や組織への感謝を、個人から集団の感情に拡張するようなコミュニケーション改善の方策に活用できると考える。

上記にかかわる研究成果は、論文発表を進めており、あわせて、市民や行政に向けて情報発信として、下記の web ページを開設している。今後も逐次情報を更新して発信を続けていく予定である (<http://cogpsy.educ.kyoto-u.ac.jp/personal/Kusumi/SChome.htm>)。

成果に基づく学会発表

楠見 孝・嘉志摩佳久 新型コロナウイルスに対するリスク認知と集合的感情 日本心理学会第 85 回大会 明星大学（オンライン） 2021 年 9 月発表予定

成果に基づく学術論文

Garrett, P. M., White, J. P., Dennis, S., Lewandowsky, S., Yang, C. T., Okan, Y., Perforsl, A., Littlel, D., Kozyreva, A., Lorenz-Spreen, P., Kusumi, T. & Kashima, Y. (2021). Papers please: Predictive factors for the uptake of national and international COVID-19 immunity and vaccination passports. *PsyArXiv* <https://psyarxiv.com/fxemq/download/?format=pdf>

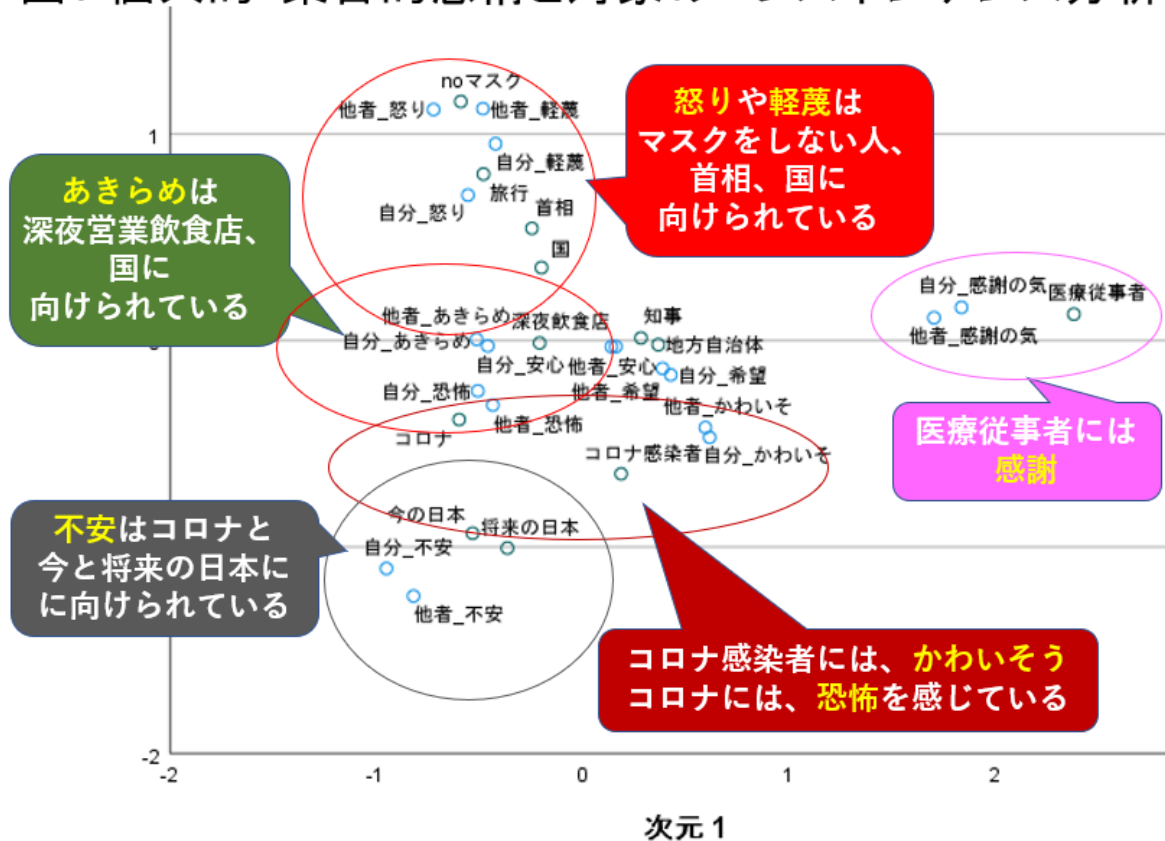
さらに、学術雑誌論文を準備中である。

表1 新型コロナウイルス感染症に対する個人的-集合的感情（回答比率） N=1007

感情	新型コロナウイルス		新型コロナウイルス感染者		医療従事者 (医師、看護師など)		外出時にマスクをしない人		旅行や遊びに出かける人		夜遅くまで営業している飲食店		国 (政府、厚生労働省など)		地方自治体 (都府県庁、市役所、保健所など)		首相、大臣など		知事、市長など		いまの日本社会		将来の日本社会	
	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合	自分	集合
怒り	26.7	< 30.2	3.7	< 12.7	0.4	< 2.2	35.5	< 53.5	22.2	< 39.7	10.1	< 21.6	23.5	< 36.7	7.1	< 19.1	28.6	< 39.9	8.3	< 18.4	9.1	< 11.3	3.6	< 5.9
不安	47.4	= 48.8	33.7	< 42.0	6.3	< 12.9	34.6	= 34.5	31.6	= 31.7	34.0	= 35.0	31.0	< 33.2	25.6	< 29.0	28.9	< 32.4	22.5	< 28.1	64.2	< 66.8	60.2	< 63.9
恐怖	53.3	< 59.1	17.0	< 35.6	2.3	< 7.6	24.4	< 28.1	11.0	< 15.7	8.3	< 10.8	3.1	= 4.4	1.4	< 3.1	3.8	= 4.7	2.2	= 2.9	13.5	= 13.2	9.6	= 8.9
かわいそう	0.9	= 1.7	56.0	> 50.4	27.5	= 26.7	2.3	= 1.8	1.8	= 1.9	18.0	> 12.9	4.1	= 3.2	8.8	> 6.4	5.9	> 3.8	9.7	> 6.4	3.1	= 2.0	2.7	= 2.2
あきらめ	14.3	= 14.2	8.4	= 6.7	1.5	< 2.7	15.7	= 15.5	24.5	= 22.2	26.1	= 26.3	33.8	= 32.6	19.8	= 22.0	35.8	> 32.5	21.5	= 22.0	28.9	= 28.4	22.3	= 22.3
軽蔑	3.6	< 5.2	3.5	< 18.8	0.5	< 3.4	39.1	< 52.1	29.6	< 42.6	10.1	< 22.5	13.0	= 13.5	4.1	< 7.1	18.1	= 18.2	5.2	< 7.7	3.5	= 3.6	1.8	= 2.5
希望	0.7	= 1	0.6	= 0.6	22.6	> 20.4	0.6	= 0.6	1.8	= 1.4	1.1	= 1.6	7.4	= 6.5	12.0	= 10.6	6.4	= 5.6	11.9	= 10.9	4.2	= 3.6	15.9	> 13.0
感謝の気持ち	0.8	= 0.3	1.2	= 1.1	83.7	> 78.7	1.2	> 0.3	0.9	> 0.1	2.8	> 1.6	8.9	> 5.0	25.7	> 14.5	7.3	> 4.6	20.2	> 12.3	0.9	= 0.8	0.8	= 0.9
安心	0.8	= 1.1	0.8	= 0.3	8.1	= 7.6	0.5	= 0.5	0.8	= 1.1	1.4	= 0.9	3.0	= 3.4	5.4	= 4.8	1.5	= 2.3	4.2	= 4.4	1.4	= 2.1	3.1	= 3.4

不等号は比の差の検定で有意 (p<.05)

図1 個人的-集合的感情と対象のコレスポネンス分析



2021年8月29日

「新型コロナウイルス感染拡大に関連した実践活動及び研究」会計報告書

活動・研究名称	新型コロナウイルス感染拡大防止と社会活動再開のためのテクノロジー受容の国際比較研究	
代表者 氏名・所属	楠見 孝	京都大学教育学研究科・教授

1. 助成額	¥420,000
2. 支出合計	¥420,000
(1) 機器・備品	
1)	
2)	
3)	
(2) 消耗品	
1)	
2)	
3)	
(3) 旅費・交通費	
1)	
2)	
3)	
(4) 謝金	
1)	
2)	
3)	
(5) その他	
1) 新型コロナウイルス感染拡大防止と社会活動再開のためのテクノロジー受容 調査の請負	¥420,000
2)	
3)	

※ 領収書は各費目ごとにA4用紙に貼付し、通し番号を付けてください。